



この文書はオリジナルの英語文書を翻訳（「参考」部分は一部要約）したものであり、情報提供の目的にのみ用いられるものです。この翻訳とオリジナル英語文書において不一致がある場合、オリジナルの英語文書が優先いたします。

The MIDORI Prize for Biodiversity 2012 授賞式 COP11 閣僚級ランチョンにおいて開催

2012年10月17日、The MIDORI Prize for Biodiversity 2012の授賞式がインドのハイデラバードで開催されました。同授賞式は、インド環境森林相でありCOP11代表を務められたジャヤンティ・ナタラージャン氏のご臨席のもと、インド環境森林省が主催する生物多様性条約第11回締約国会議（COP11）閣僚級ランチョンにおいて執り行われました。

The MIDORI Prize は公益財団法人イオン環境財団主催、生物多様性条約事務局共催により実施される隔年開催の国際賞で、生物多様性の保全と持続可能な利用に関し、世界または地域レベルで顕著に貢献している個人を顕彰するものです。

2012年の受賞者には、チリ カトリカ大学生態学部 教授のフアン・カルロス・カスティーリャ博士、コスタリカ生物多様性研究所（インビオ）代表のロドリゴ・ガメス＝ロボ博士、ベトナム国家大学ハノイ校自然資源管理・環境研究センター名誉総長のボ・クイ博士が選ばれました。

受賞者には岡田卓也イオン環境財団理事長より、木製楯、記念品、および生物多様性の保全事業推進を目的として副賞（10万USドル）が、それぞれ贈られました。また本賞の共催者を代表し、ブラウリオ・フェレイラ・デ・ソウザ・ジラス生物多様性条約事務局長が授賞式に臨席されました。

本賞の受賞をうけて、カスティーリャ博士は「海洋保全、生物多様性と資源の持続可能性という問題と対峙するとき、新たな解決法を与えうる、知識とリアリズムという2つの礎石があります。利用者、ステークホルダー、社会を統合することが不可欠である以上、単純な、トップダウンの保全方法（例えば排他的な禁漁区のネットワークのみ）では、うまく機能しません。」「社会－生態学的なシステムの持続可能性は、ガバナンスと倫理的なバックグラウンドに支えられています。過去40年間、チリにおけるこの枠組みの中で、私は地域の小規模漁業コミュニティを統合し、沿岸資源の持続可能性のために新しい海洋保全・管理ツールを開発してきました。人新世といわれる産業革命以降のこの時代において海洋の持続

可能性に関する新たなパラダイムとは、保全と管理という 2 つのツールをひとつにするよう、それらを包括的に融解させ統合させることなのです。」と述べられました。

ガメス博士は「生物多様性を保全する最善の方法とは、賢明な方法で、精神的・知的・経済的な目標のために「生物多様性を知り」、持続可能に「利用することだ」という前提に基づいて、インビオは、政府による野生保全地域の国家システム創出という、まず第一に必要とされる「保全」の段階から活動を始めました。「保全し」「知り」「利用する」というコスタリカの保全戦略三部作はこうして誕生しました。」

「The MIDORI Prize が、インビオを主導するという興奮に満ちた冒険において、近年私が果たさせていただいたこの恵まれた役割を顕彰して下さるものであるならば、この機会をお借りして、公益財団法人イオン環境財団、生物多様性条約事務局、The MIDORI Prize 審査委員会、ならびにノミネーターの皆様にご挨拶を申し上げます。認識すべきこととは、自然と共に平和を迫するという人間の努力に他ならないのです。」と述べられました。

ボ・クイ博士は「ご存知のとおり、我々は生物多様性に依存して生きています。しかし今日、生息地や野生生物への負荷を高める人口の増大と資源消費に伴い、種の消失は加速しつつあります。限られた自然資本のなかで、我々が生存し、開発を続けていく方法を見出せるのかどうかは疑問であるといわねばなりません。今こそ行動すべき時です。迅速に行動に移さなければ、解決すべき問題は深刻化してしまいます。」「この問題の解決法はひとつではありません。世界のコミュニティのメンバーひとりひとりが果たすべき役割を持っているのです。大きなことを成す人もいれば、小さなことを成す人もいます。しかしいずれも、地球全体に貢献していることには変わりはありません。我々は皆、この問題に悩まされており、その解決のために協力しなければならないと私は考えています。なぜなら我々はただひとつの惑星—地球に共に生きているのですから。」と述べられました。

ジャヤンティ・ナタラージャン インド環境森林相・COP11 代表は次のように述べられました。「COP11 の代表として、The MIDORI Prize の授賞式を開催いたしましたことを大変誇りに思っております。また、生物多様性条約の実施に顕著に貢献してこられた The MIDORI Prize の受賞者の皆様をお迎えすることができ幸甚です。受賞者の皆様の素晴らしい業績によって、また、この The MIDORI Prize を介して、生物多様性問題に多くの人々の関心を集めることができると確信しています。」

同授賞式に続いて、インドではハイデラバード国際会議場（Hyderabad International Convention Center）において受賞者によるレクチャーが 10 月 18 日に開催される予定です。また日本においては、国際連合大学ウ・タント国際会議場において、受賞者フォーラムが 10 月 22 日に開催されます。

The MIDORI Prize は、国際生物多様性年であった 2010 年に公益財団法人イオン環境財団によって設立されました。2012 年は、本賞の第 2 回目の開催となります。

参考

(1) The MIDORI Prize 2012 受賞者

チリ カトリカ大学生態学部 教授 フアン・カルロス・カスティーリャ博士

フアン・カルロス・カスティーリャ博士は、海洋学者として生物多様性の保全と持続可能な利用を促す国の政策に関わり、生物多様性の損失および気候変動の有害な影響に対し、小規模海洋保護区における漁業資源を政府や沿岸・漁業コミュニティと共同管理することを提唱。この取り組みを通じて、小規模海洋保護区が零細漁業の生計向上、ひいてはコミュニティの持続的な発展、グリーンエコノミーの形成につながることを示されました。このようなコミュニティに根差した活動が広まり、各国のコミュニティにおいて生態系に基づいた管理が行われれば、愛知ターゲットの達成につながります。

また、沿岸および海洋の生物多様性は、近年、国際的に関心の高まっている課題のひとつであり、リオ+20でも取り上げられました。これは、本年の「国際生物多様性の日」のテーマでもあり、COP11においても主要議題のひとつになると考えられています。海洋分野における博士の先駆的な取り組みは、沿岸・海洋の生物多様性にかけている負荷を低減させるとともに、世界へ同様の活動を促すことが期待されています。

コスタリカ生物多様性研究所（インビオ）代表 ロドリゴ・ガメス＝ロボ博士

ロドリゴ・ガメス＝ロボ博士は、ブラジル リオ・デ・ジャネイロでの「地球サミット」に先立つ 1991 年に、ダニエル・ジャンセン博士と共に生物多様性インベントリー作成のインビオを設立。パラタクソノミスト(分類補助員)を育てコスタリカの生物多様性インベントリー作成に多大な貢献を果たされ、あわせて生物多様性を学校教育のカリキュラムに導入するべく尽力されました。設立以来、インビオを主導し、生物多様性を独創的かつ具体的に示した博士の功績は高く評価されています。

また、メガダイバーシティの国であるコスタリカの国土の 25%を国立公園にすることを働きかけ、コスタリカに農業収入よりも価値の高いエコツーリズムによる収入をもたらしてこられました。こうした活動は、開発と生物多様性の保全のバランスの問題を抱える熱帯諸国において生物多様性の保全と利用に関する先導的

な役割を果たしています。科学的見地に基づきながら行政とともに行政とともに行う博士の取り組みにより、生物多様性はコスタリカの国家アジェンダとなりました。さらに博士が、世界分類学イニシアティブ、アクセスと利益配分といった生物多様性条約の主要テーマに貢献してきたことも高く評価されています。

ベトナム国家大学ハノイ校自然資源管理・環境研究センター名誉総長 ボ・クイ博士

ボ・クイ博士は、戦争によって破壊された自然環境を再生し、ベトナムの国土の50%を森林として甦らせるという高い目標を掲げ、科学的見地からマスタープランを作成してこられました。この計画は国の環境政策に採用され、大きな成果をあげています。また、ベトナムの科学者を育成するとともに、科学者のコミュニティへの参画促進にも尽力され、能力開発や環境に対する意識改革にも多大な貢献をしてこられました。科学的手法を導入するとともに、コミュニティと協働するという博士の取り組みは、枯葉剤などの影響で深刻な状況にあった戦後の森林を再生し、生物多様性の豊かさの向上に大きく貢献しています。国あるいはコミュニティのレベルで科学的に自然環境を再生するこの活動は、他の開発途上国における自然環境の保全・修復のモデルとしても高く評価されています。戦争による森林破壊と生物多様性の損失の増大は、世界が直面する問題であり、この取り組みはベトナムに限らず、世界の森林再生と生物多様性の保全に貢献することが期待されています。

(2) The MIDORI Prize for Biodiversity

2010年は、国連が定めた「国際生物多様性年」であり、生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が名古屋において開催された、生物多様性におけるマイルストーンともいえる年でした。同年、設立20周年を迎えた公益財団法人イオン環境財団は、この重要な年を記念し「The MIDORI Prize for Biodiversity」を設立いたしました。

本賞は、2010年に設立された隔年開催の国際賞であり、生物多様性の保全と持続可能な利用に関し、世界または地域レベルで顕著に貢献している個人を顕彰するものです。イオン環境財団は、この表彰を行うことにより、今後、世界における生物多様性に関する様々な取組に発展的影響を及ぼし、かつ生物多様性に関する人々の認識がさらに向上することを目的としています。

The MIDORI Prize for Biodiversity について: www.midoripress-aeon.net/prize/index.html

選考の経過

2012年3月1日（木）から6月30日（土）までの期間、本賞ウェブサイトからの公募と有識者からのノミネーションにより候補者を募集いたしました。期間中、50カ国以上145名の受賞候補者が推薦され、有識者で構成された専門委員会による選考を経て、審査委員会による最終審査が行われました。

審査基準

受賞者には、これまでに生物多様性の保全等について世界的な観点で顕著な貢献が認められることに加え、生物多様性に関する貢献が今後も期待できることが求められます。さらに、受賞者の顕彰が世界的な観点で同様の取り組みの普及、推進等に貢献することが期待されています。そのため、候補者は次の7つの基準に基づいて審査されました。

- ① 国際的な貢献
- ② 保全と持続可能な利用への貢献
- ③ 社会への貢献
- ④ 長期的な視点・継続性
- ⑤ 創造性・新規性
- ⑥ 市民性・総合性
- ⑦ 実効性・波及力

実施体制

主催：公益財団法人イオン環境財団

共催：国連生物多様性条約事務局

後援：環境省 朝日新聞社

(3) 公益財団法人イオン環境財団

公益財団法人イオン環境財団は、平和の追求、人間の尊重、地域への貢献というイオンの基本理念に基づき、1990年に設立されました。同財団は、設立以来、植樹活動や資源の再利用、環境NGO・NPOの支援、国際会議の実施に取り組んでおります。植樹活動においては、市民ボランティアの皆さまとともに、万里の長城周辺に約100万本、国内外各地において総計180万本以上の木を植えてまいりました。また、2009年には「生物多様性日本アワード」を創設し、2011年には第2回を実施いたしました。私たちの緑の地球を次世代に引き継ぐため、当財団は、各事業を通じ、こうした活動を継続的に実施いたしますとともに、生物多様性問題に取り組んでまいります。

公益財団法人イオン環境財団ホームページ：<http://www.aeon.info/ef/jp/index.html>

(4) 生物多様性条約 (Convention on Biological Diversity (CBD))

1992年リオ・デ・ジャネイロで開催された生物多様性条約（正式名称：生物の多様性に関する条約）は、1992年にリオ・デ・ジャネイロで開催された国連環境開発会議（地球サミット）で採択された国際条約の1つで、翌1993年に発効しました。同条約は、生物多様性の保全とその構成要素の持続可能な利用、遺伝資源の利用から生じる利益の公正な配分を目的としています。現在の加盟国は193カ国であり、全世界的に加盟されている条約です。同条約は、科学的な評価、ツール開発、インセンティブとプロセス、技術や優れた事例の移転、先住民・地域住民・若者・NGO・女性・ビジネス業界等 ステークホルダーの積極的で十分な参加により、気候変動による脅威など生物多様性や生態系サービスに対するあらゆる脅威に取り組んでいます。「バイオセーフティに関するカルタヘナ議定書」は生物多様性条約に基づく補助的な合意であり、現代のバイオテクノロジーによって作られた遺伝子組換え生物（Living modified organism; LMO）から生じるリスクから生物の多様性を保全することを目的としています。現在、世界162ヶ国および欧州連合が同議定書に批准しています。生物多様性条約事務局およびカルタヘナ議定書事務局はモントリオール（カナダ）にあります。

生物多様性条約事務局ホームページ：www.cbd.int/

連絡先：David Ainsworth on +1 514 287 7025 or at david.ainsworth@cbd.int

Johan Hedlund on +1 514 287 6670 or at johan.hedlund@cbd.int.
